【大台ヶ原の現状整理】植生の変化について

１．植生の変化

（１）林冠ギャップの変化について

平成 25 年 11 月に実施した航空写真撮影結果を元に大台ヶ原全体の林冠ギャップ図を作成し、平成 17 年度の結果と比較を行い、東大台のミヤコザサ草地の面積の変化や西大台の林冠ギャップの分布状況の変化について解析を行う。現在、データの解析中である。

（２）ササ類の分布状況の変化について

大台ヶ原全体を 100mメッシュに細区分した被度クラス（6 段階）調査の結果から、大台ヶ原全体のササ類の分布状況の変化を把握した。

ミヤコザサの分布するメッシュ数は平成 14 年度から平成 24 年度にかけて増加した（図 2）。

また、コケ探勝路や西大台の七ツ池付近では平成 14 年度に比較して平成 24 年度にかけて被度クラスが上昇した（図 1）。

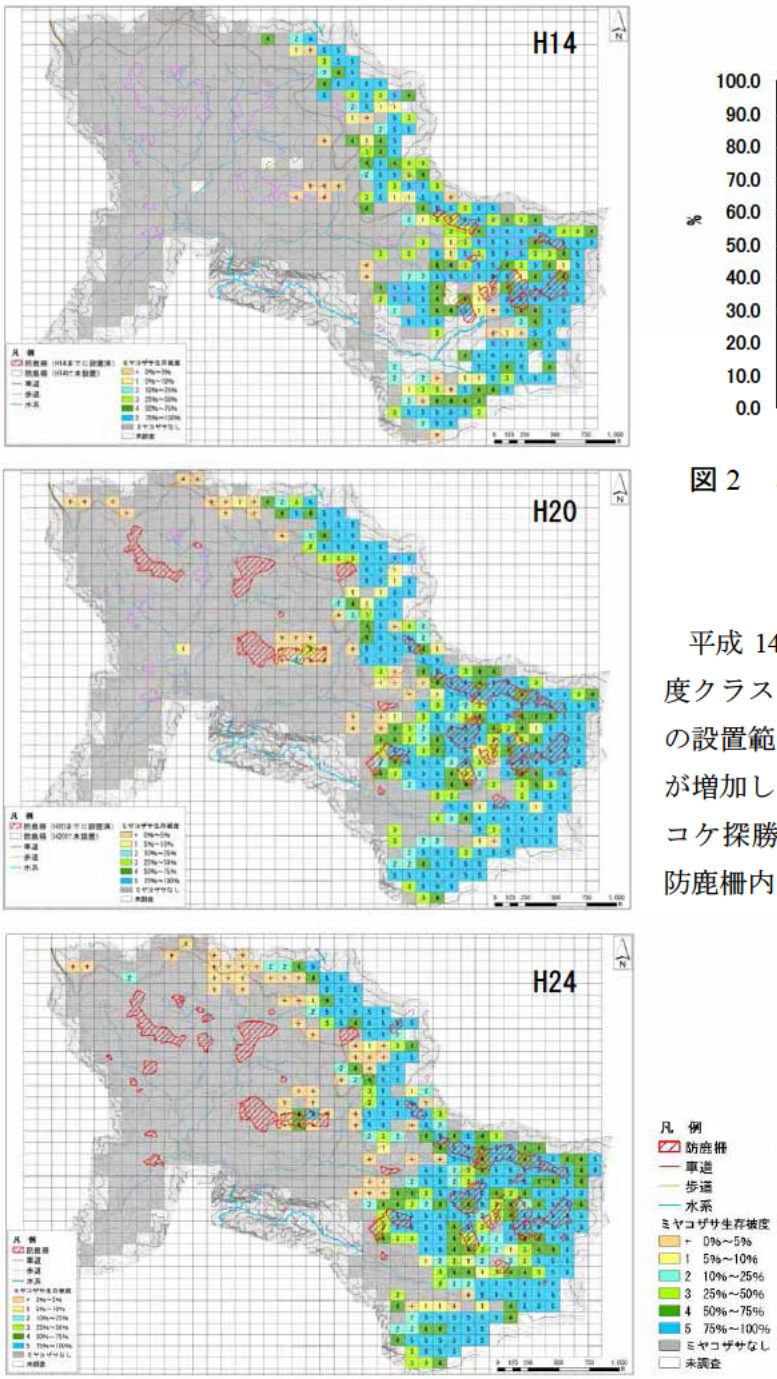

図 1　ミヤコザサの被度クラス分布の変化

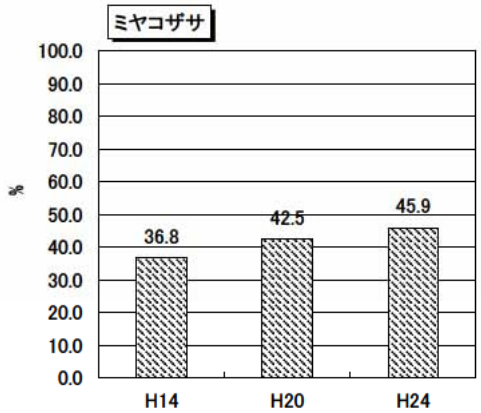

図 2　ミヤコザサが確認されたメッシュ数の割合の変化

平成 14 年度以降、ミヤコザサは分布域、被度クラスともに拡大・増加傾向である。防鹿柵の設置範囲の拡大に伴い、柵内での被度クラスが増加している。元々ミヤコザサが少なかったコケ探勝路や西大台の七ツ池などにおいても防鹿柵内では被度クラスが増加している。

スズタケの分布するメッシュ数は平成 14 年度に比較して平成 20 年度に減少し、平成 24 年度は増加した（図 4）。被度クラスの低い「+」、「1」のメッシュ数は平成 20 年度に減少したが平成 24 年度には増加した（図 5）。

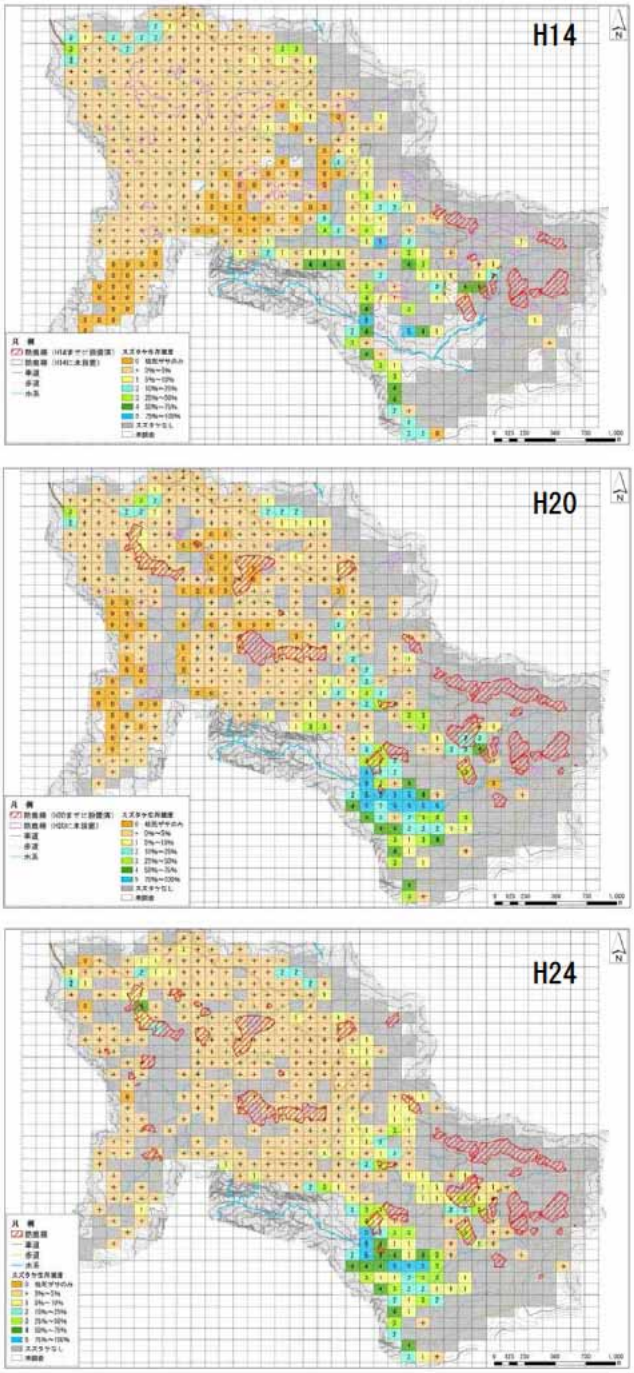

図 3　スズタケの被度クラス分布の変化

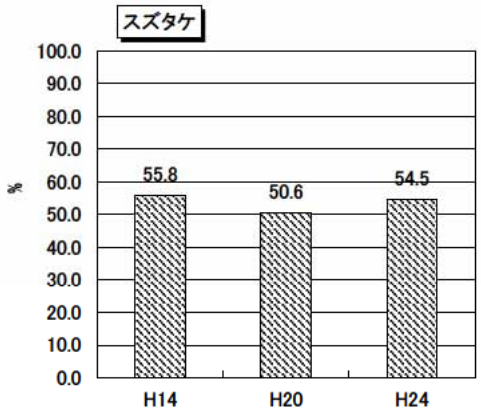

図 4　スズタケが確認されたメッシュ数の割合の変化

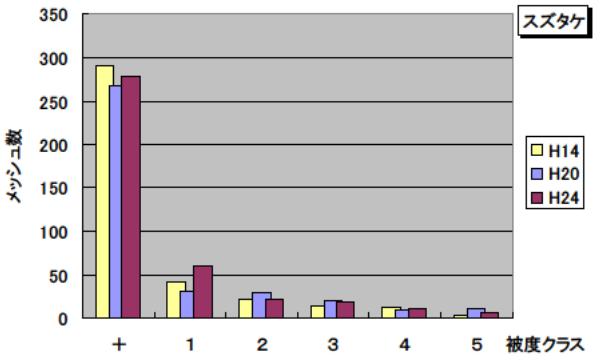

図 5　スズタケの被度クラスメッシュ数の変化

スズタケについては平成 14 年度以降、大台ヶ原全体で衰退傾向であったが、シオカラ谷や経ヶ峰の防鹿柵を設置した箇所では回復傾向にあり、被度クラスの増加が見られた（図 3）。

（3）コケ類の分布状況の変化について

大台ヶ原全体を 100mメッシュに細区分した被度クラス（6 段階）調査の結果から、大台ヶ原全体のコケ類の分布状況の変化を把握した。

コケの分布するメッシュ数には大きな変化は見られなかった（図 7）が、場所により被度クラスに変化が見られた。東大台のコケ探勝路付近では平成 14 年には被度クラス 2 であったメッシュが平成 24 年には被度クラス 1、+に低下していた。西大台ではコケの被度クラスが増加したメッシュが多かった（図 6）。

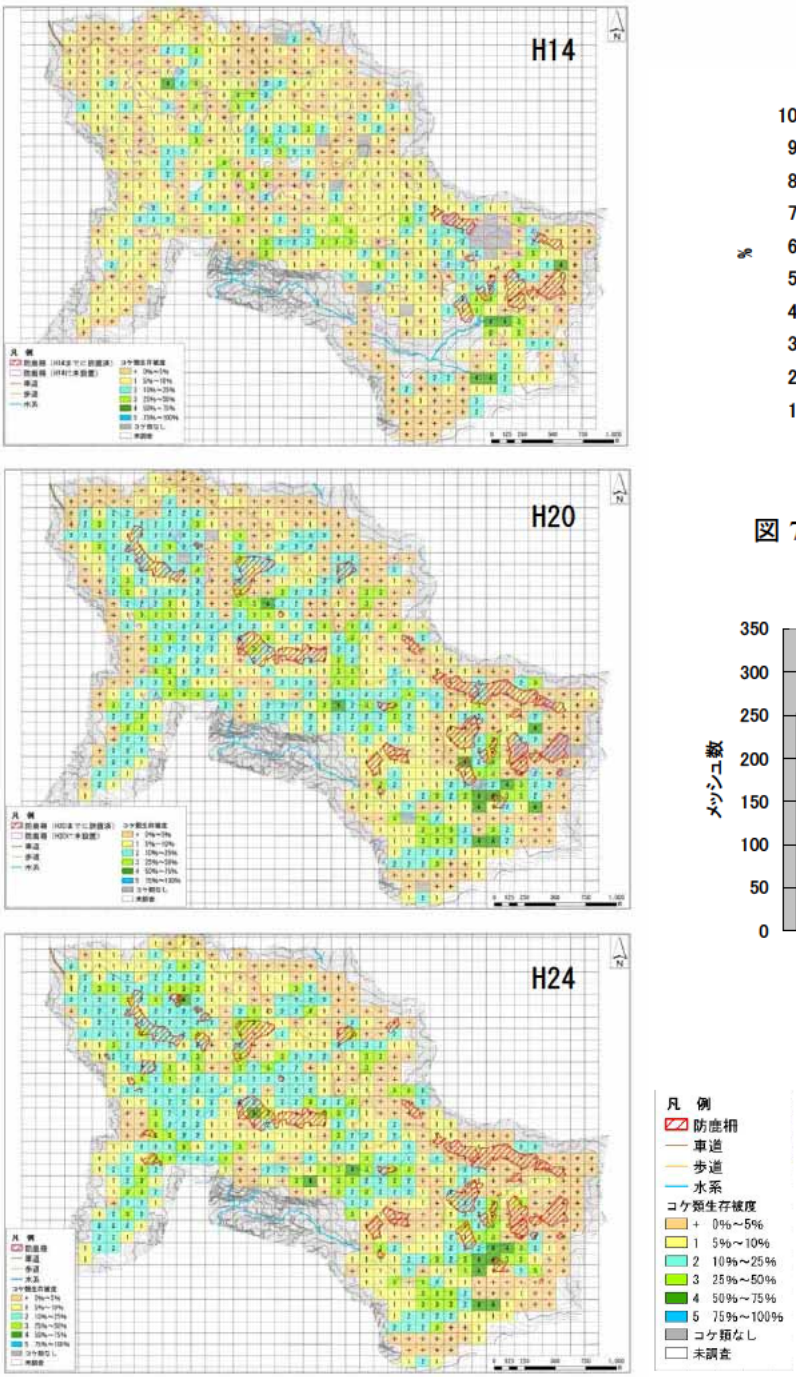

図 6　コケ類の被度クラス分布の変化

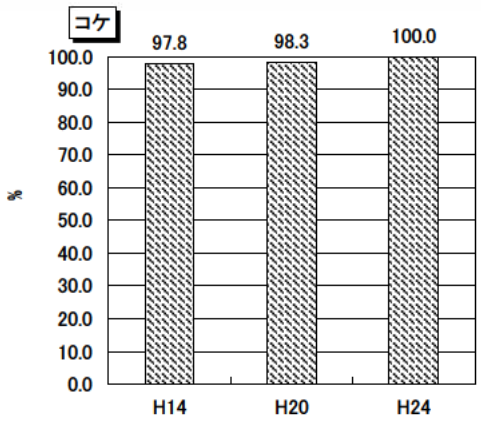

図 7　コケ類が確認されたメッシュ数の割合の変化

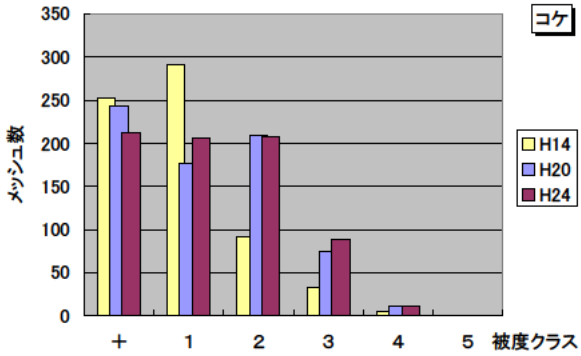

図 8　コケの被度クラスメッシュ数の変化

平成 14 年度以降、大台ヶ原全体のコケの分布メッシュ数に大きな変化は見られないが、東大台ではミヤコザサの被度クラスの増加にともないコケの被度クラスが減少し、西大台ではスズタケの被度クラスの減少にともない、林床が明るくなったためコケの被度クラスが増加していると考えられる。

（4）景観の変化について

大台ヶ原の景観の変化を把握することを目的として、定点写真撮影を実施している。平成 18 年度から平成 25 年度までの撮影定点からの景観変化を見たところ、平成 18 年度以降、コケ探勝路の防鹿柵内でミヤコザサの増加が目立ったほかは、特に目立った景観変化は見られなかった（表 1）。

表 1　コケ探勝路付近の景観変化

	定点写真撮影地点 No.2 苔探勝道　墓石裏 撮影対象： 苔探勝道林内　ドライブウェイ方面 【平成 18 年 10 月撮影】
	【平成 20 年 10 月撮影】
	【平成 25 年 10 月撮影】

（5）ドライブウェイ沿いの国外外来種の分布状況について

ドライブウェイ沿いおける国外外来種の侵入状況を把握するために平成 21 年度に調査を実施した。

調査の結果、国外外来種は 26 種確認されたが、特定外来生物は確認されなかった。ドライブウェイ沿いを通して出現率が高かった国外外来種は、オオウシノケグサ、コヌカグサ、オニウシノケグサ、シロツメクサ、ナガハグサといった法面緑化に利用されるイネ科の草本であった。

中でもオオウシノケグサ、コヌカグサは確認された調査区間において高い被度で群落を形成している場合が多かった。

確認種に対する国外外来種の占める割合については、5.7～24.5%で平均 13.6%であり（図 9）、七ツ池周辺の広い路側帯がある場所などで高い傾向があった（図 10）。

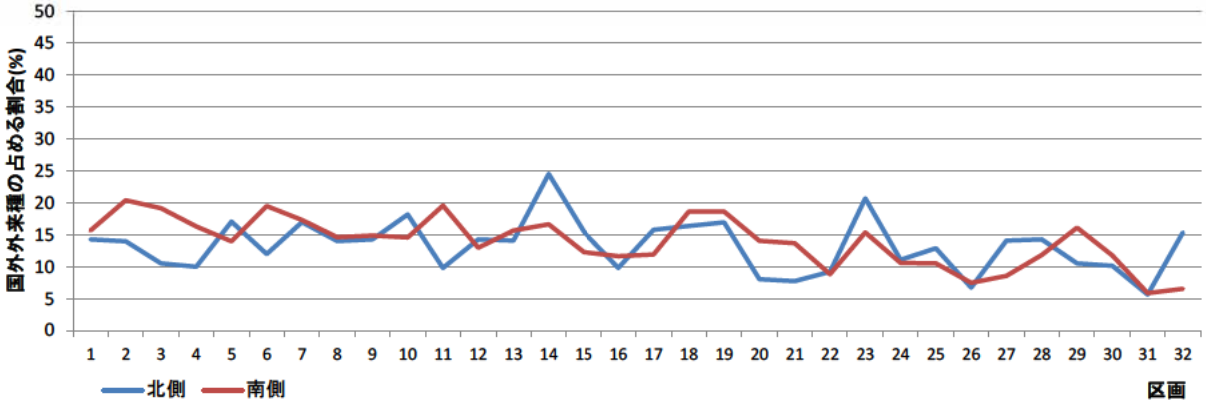

図 9　各区画における国外外来種が占める割合

※区画番号は図 10 の番号と一致している。

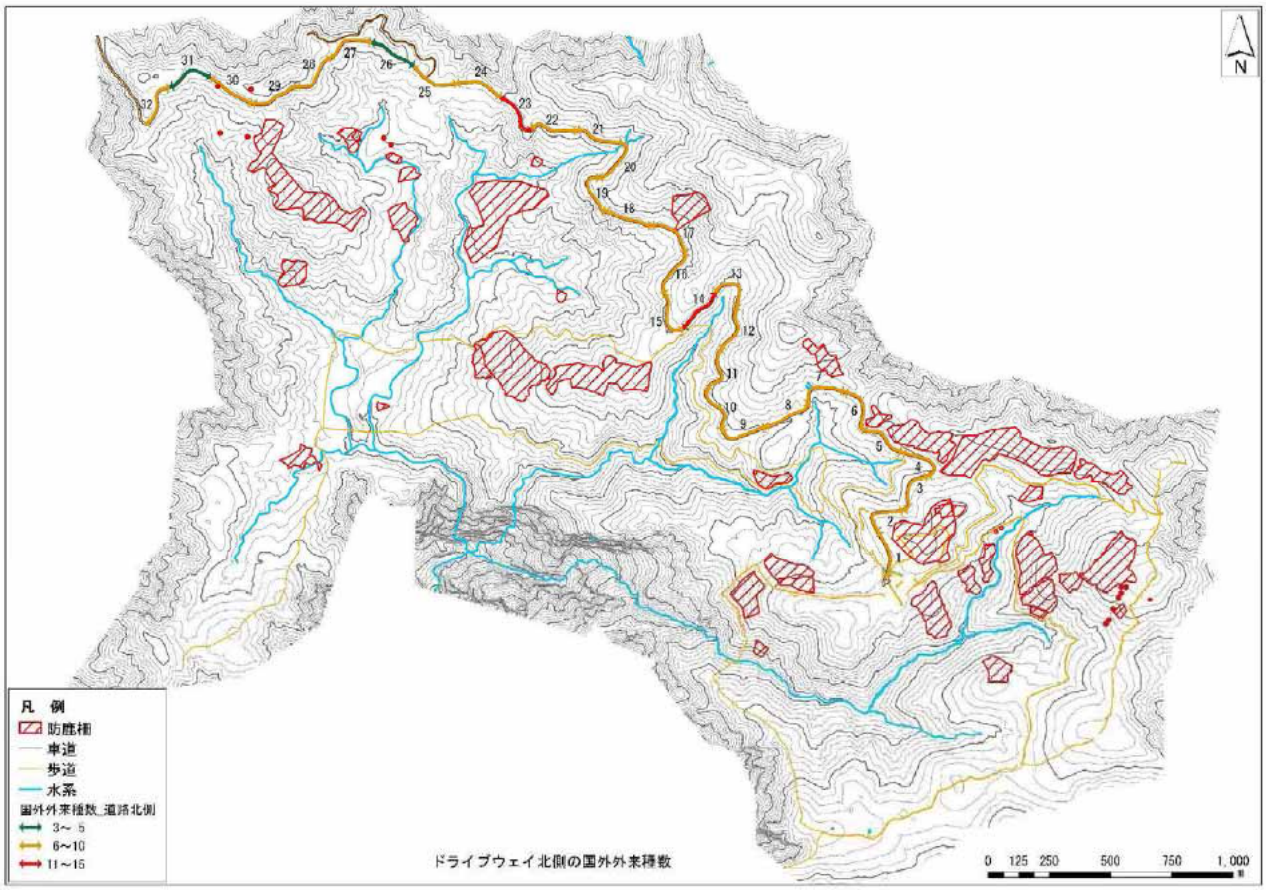

図 10-1　ドライブウェイ沿いで確認された国外外来種数（北側）

※図中の防鹿柵は平成 21 年度に設置済みのものである。

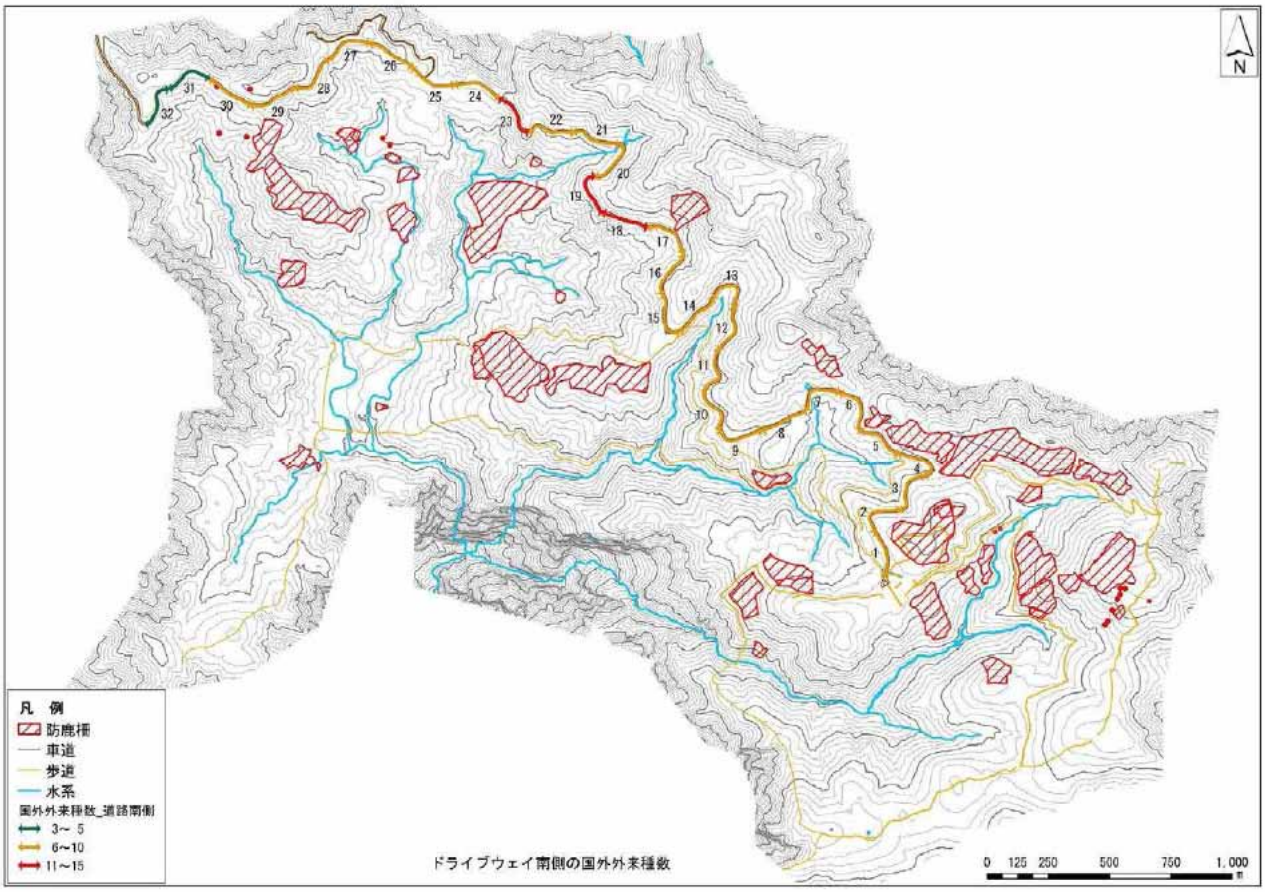

図 10-2　ドライブウェイ沿いで確認された国外外来種数（南側）

※図中の防鹿柵は平成 21 年度に設置済みのものである。